

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	龍谷大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	リュウコクダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	306012
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	協定型インターンシップ
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	協定型インターンシップ総合コーディネーター
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	22
	受入企業等数	13
	受入企業等名	ケマーズ株式会社・住友林業株式会社・損害保険ジャパン株式会社・凸版印刷株式会社・野村證券株式会社・三菱ケミカル株式会社・株式会社朝日新聞社・株式会社アリストンホテルズ・英和株式会社・S M B C日興証券株式会社・滋賀ダイハツ販売株式会社・株式会社たけでん・富士フイルムビジネスイノベーション
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、P B L型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	令和3年度については、オンラインを中心とした実習のみを実施した。内容としては、オンラインでの工場見学や企業訪問、ロールプレイやワーク、課題事例研究等が中心となる。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年

2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	大学 4単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	学部ごとに単位認定の対象学年や単位数が異なる。前期授業期間に全13回の事前学修を実施し、夏期休暇期間中に実働10日間以上の実習に参加、その後後期授業開始前に8回の事後学修を実施している。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
	3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	5.その他
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	自校史、コミュニケーションスキルに関するワークショップ、卒業生のパネルディスカッション、リスクマネジメントを実施している。
3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	実習期間中、実習開始から3日目と最終日の2回、学生から大学へオンラインツールを使用して実習報告をさせている。
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全13回の事前学修の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解、外部講師によるビジネスマナー、ゼミ形式によるグループワークでの実習先業界研究、インターンシップの意義・リスクマネジメントなどを実施している。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	ゼミ形式によるグループワークで、実習内容を振り返り、各自の経験を共有している。そのうえで報告会に向けて、プレゼンテーション資料を作成する。報告会には、企業担当者を招き、学内関係者や学生にも公開している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	担当教員が実習期間中に実習先を訪問し、受入先担当者や学生と面談を行っている。また学生には、実習開始3日目と最終日にオンラインツールを利用して、実習中の様子を大学へ報告するよう指導している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	事後学修で学んだことを共有し、言語化して発表をしている。
4-3.上記回答内容に関する詳細	実習前に獲得目標を設定させ、実習後はその獲得目標の達成度や職業観の変化等についてレポートを作成させている。また、報告会で他の実習生の前で発表をさせることで、学生のインターンシップ参加前後の変化を確認し、実習での経験が進路選択に活かせるよう指導している。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	いずれの実習先においても実働10日間以上のインターンシップを実施している。令和3年度は、コロナ禍の影響で実習期間が6日間となった実習生については、補講及び課題提示を行った。
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	事前学修4日、実習実働10日間以上、事後学修2日	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている	

素 ⑥		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	<p>受入先で作成された実習プログラム内容を確認し、学生にとって有益な就業体験となるよう内容によっては変更を依頼している。</p> <p>実習前の事前学修期間では、実習初日からスムーズに実習に取り組めるよう実習先を訪問（対面・オンライン・電話等）し、獲得目標を共有している。</p> <p>実習生が毎日記載する日報に、実習先担当者からのコメントを記載いただき、実習終了後には実習評価も記載していただいている。</p>
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/data/internship_2021/
問 い 合 わ せ 先	大学等名	龍谷大学
	担当部署名	インターンシップ支援オフィス
	担当者役職名	
	担当者氏名	インターンシップ支援オフィス担当者
	電話番号	075-645-2322
	メールアドレス	intern@ad.ryukoku.ac.jp